

炭素繊維強化熱可塑性樹脂

来月から加工販売

化学・車・航空機向け

奥谷金網製作所

【神戸】奥谷金網製作所（神戸市中央区、奥谷勝彦社長、07・8・351・2531）は、10月から炭素繊維強化熱可塑性樹脂（CFRTP）の加工販売「CFRTPパンチング」を始める。バリやひび割れを抑えた独自のプレス加工で樹脂を網目状にし、化学、自動車、航空機向けにフィルターや軽量化素材として販売する。2015年度に1000万円の売り上げを見込む。

炭素繊維強化熱可塑性樹脂のシートは、東レ子会社の東洋プラスチック精工（東京都中央区、遠

山和年社長、03・3241・3972）から提供を受ける。同シートはナイロン6が80%、炭素

繊維20%の複合材で、価格は1㎡当たり約1〜2万円。炭素繊維強化プラスチック（CFRP）に比べ強度は劣るが、安価で熱間プレスや真空成形などの加工がしやすい。金属に比

較して、奥谷金網製作所が加工販売する「CFRTP」の加工例

奥谷金網製作所は板の厚さと同等以下の直径の穴を、バリやひび割れを抑えてプレスする独自技術を持つ。同シートをフィルター状に加工し、金属腐食などが発生する化学プラントのほか、軽量化が図れる自動車、航空機、電子機器などに販売する。

今後は超耐熱性樹脂のポリフェニレンサルファ

イド（PPS）を母材にしたシートの加工にも取り組むほか米国、ドイツの展示会に出展し、欧米を中心に海外へも拡販する。

